

# 令和6年7月24日 第3回 草津市総合計画策定推進委員会

**開催日時** 令和6年7月24日(水) 午前9時15分から午前9時45分まで

**開催場所** 庁議室

**出席者** 市長、辻川副市長、南川副市長(総務部長事務取扱・法令遵守監事務取扱)、教育長、総合政策部長、総合政策部理事(草津未来研究所担当)、総合政策部理事(経営・DX戦略担当)、危機管理監、まちづくり協働部長、環境経済部長、健康福祉部長、健康福祉部理事(健幸都市づくり・地域共生社会推進担当)、子ども未来部長、都市計画部長、建設部技監、建設部長、建設部理事(住宅担当)、上下水道部長、教育部長、教育部理事(学校教育担当)、議会事務局長

**欠席者** なし

**議事概要** 下記のとおり

## 1. 審議事項

### (1) 第6次草津市総合計画第2期基本計画(素案)について

【資料:論点整理資料、資料1～3、参考資料1～4】

【総合政策部長から資料に基づき説明】

- ・第2期基本計画の変更内容について、新たに追加した地方創生についての記載内容およびリーディング・プロジェクトのレイアウトについての主に2件について審議いただくもの。
- ・【資料1】2、3ページについては、主に第1期基本計画からの時点修正となる。
- ・【資料1】4ページのウェルビーイングについては、デジタル庁の「地域幸福度(Well-Being)指標」が進められていることを踏まえ、「地域幸福度(Well-Being)指標」の説明や草津市の取組である「健幸創造都市」がウェルビーイングに近い概念であることを記載している。また、「地域幸福度(Well-Being)指標」を総合計画の進捗を図るうえでの参考指標とし、将来ビジョンの実現に向けた取組を推進することを記載している。
- ・【資料1】5ページのデジタルトランスフォーメーション(DX)については、第1段落を「DXを進める意義を記載している。また第2段落では、「DX」と「スマートシティ」、「ウェルビーイング」との関係性を記載している。第3段落では、草津市が取り組む「DX」の事例を記載して、リーディング・プロジェクトとして位置付け推進していくことを記載している。
- ・【資料1】6ページの「進捗管理および評価について」は、第1期基本計画と同じ構造で記載しており、「地域幸福度(Well-Being)指標」を施策の進捗状況を把握するうえでの参考指標として位置付けることを追記している。
- ・【資料1】185ページの地方創生については、第3期の総合戦略についても第2期総合戦略と同様に、総合計画(基本計画)と総合戦略を一体的に策定することを記載している。また、第3期総合戦略策定にあたり、国のデジタル田園都市構想総合戦略等を勘案しデジタルの力も活用した地方創生の取組を進めていくことを記載している。
- ・「地域幸福度(Well-Being)指標」については、今年度にアンケート調査結果をデジタル庁の専用サイトに反映したデータを共有している。なお、データについてはデジタル庁が収集した全国調査結果と、本市が調査した個別調査結果を確認することができ、他市との比較も行えるため活用いただきたい。
- ・【資料1-別紙】にあるように、DX推進プロジェクトは4つのリーディングを下支えするものとして位置付け

ている。また、審議会や特別委員会での指摘を踏まえ「未来を担う子ども育成プロジェクト」、「にぎわい・再生プロジェクト」、「DX 推進プロジェクト」の修正点は赤字で記載している。

・【資料1】の「分野別の施策」については、基本方針ごとに庁内照会のうえ、修正内容を反映している。

・特別委員会の指摘を受け、施策体系および基本方針名は【資料3】に記載のとおり修正した。

#### 【主な質疑・意見】

・【資料1—別紙】DX推進プロジェクトで「住民の利便性の向上」と書かれているが、【資料1】では「市民」という言葉を使っている。「住民」と「市民」で違う表現にした理由はあるのか。

→【資料1】の本文では「市民」と記載しているため統一する。

・【資料1】ウェルビーイングについて、施策ごとに「地域幸福度(Well-Being)指標」との関係を示す別表は最終的には付けていただきたい。

→別表で記載する指標は庁内照会中のため、集計次第、添付する。

・【資料1】ウェルビーイングについて、より市民に分かりやすくするために基本計画の分野ごとにウェルビーイングの関係を示すと良いのではないか。例えば、20ページ以降の基本方針に紐づけて記載できないか。

→施策評価シートの中では「地域幸福度(Well-Being)指標」との関係性を示す予定である。基本方針ごとに紐づけるためには施策体系自体を見直さないと難しいため、今回は施策に紐づける方針としたい。SDGsについては、計画全体にわたる取組のため、方針ごとにマークを付けているが、「地域幸福度(Well-Being)指標」はPDCAを回す参考指標として位置付けているため、ここでの記載は難しい。

・【資料1】71ページの主要事業が提出したものと変わっている。79ページと80ページの主要事業のタイトルが赤字と黒文字が統一されていない。細かくチェックするように部内に周知しているので、事務局と適宜調整したい。

・DXのプロジェクトは国が進めていることをもとに、ウェルビーイングが高まり、市が目指す目標につながると認識している。「Society5. 0」や「スマートシティ」という言葉はDXが進んでいく考え方を入れているのであって、「Society5. 0」や「スマートシティ」を目指すわけではないという考え方でよいか。

→スマートシティの考え方は、スマートシティを宣言する、しないに関わらず行政として進めていく内容と認識している。記載しているDXとスマートシティの取組は類似しており、こうしたDX等を取り組むためにリーディング・プロジェクトを進めるという意味で記載している。ただし、スマートシティを宣言することはここでの議論とは別の話と認識している。「Society5. 0」を見据えた社会については基本構想で記載している。

・国が出しているDXの取組はスマートシティを見据えた内容であるということか。

→既にスマートシティを見据えた取組をしている事例はあるが、具体的にどのような方向性を目指すかはこれからの議論になる。

・【資料1—別紙】リーディング・プロジェクトについて、「子どもたちに向けて健幸」、「暮らしの安全と安心を守り、健幸」の文末の言葉が分かりにくい。また、それぞれのリーディング・プロジェクトの文末の「健幸」に係っている言葉がバラバラなので統一していただきたい。どのような「健幸」になるのか意識できたらよい。

→文章のつなぎ方は第1期基本計画を踏襲しており、DXは他の4つのリーディング・プロジェクトと連携するものとして表現にしたので原案通りとしたい。

・記載内容に変更があったときはどのようにしたらよいか。

→特別委員会に間に合うようにしていただきたい。最終ではないので、特別委員会後に微修正はできるが大きな変更はできない。子ども子育て支援事業計画の改訂や全国の動き等にも影響するため、何か変更があればその都度対応する。

- ・目次のページ数を本編と合わせる。また、「地域幸福度(Well-Being)指標」は参考値でよいのか。目次には参考指標とは入れないのか。
- 参考指標という表現をしている。目次に入れるかは検討する。
- ・【資料1】60、61ページの「関係機関等」の前に社会福祉協議会の文言は入らない理由はあるのか。
- 担当課からは、関係機関は社会福祉協議会だけではないので削除したと聞いているが、もう一度確認する。

このページのお問い合わせ

概要作成担当	草津市 総合政策部 企画調整課 企画調整係
電話	077-561-2320
ファックス	077-561-2489
メール	kikaku@city.kusatsu.lg.jp